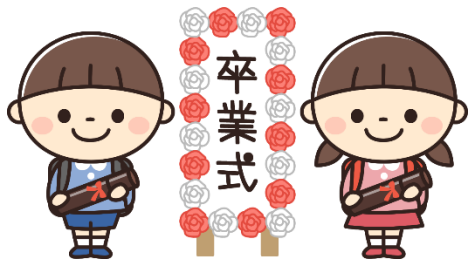





# 「失敗と書いて、成長と読む」・・・たくましく生き抜く力を！



今日3月16日（木）は6年生の修了式でした。そして、明日3月17日（金）は卒業式です。6年生はこの1年間、学校行事においても日頃の学校生活においても、常に葦高小学校のリーダーとして、「前向き」に努力を重ね、下級生に対して、言葉でなく、「実践、背中」を見せ続けてくれました。

では、その卒業式の意味について考えてみます。卒業の「卒」には「終わる」という意味があります。「業」には「なすべきこと」という意味があります。つまり、「卒業」には「なすべきことを成し遂げた」という意味が込められており、6年生に手渡す卒業証書には「小学校の全課程を修了したことを証する」と書かれています。「中学校に行っても自分の力でたくましく生きていける」という証明書になります。

しかし、中学校では、勉強は更に高度になり、部活動や友達との人間関係など、なかなか筋縄ではいかないようなことにぶつかってしまうこともあります。そんな6年生の皆さんに、詩人である相田みつおさんの「人間だもの」の中の言葉の一節を紹介したいと思います。



相田みつお

長い人生には、自分の思いが通らぬことがたくさんある。  
むしろ、自分の思うようにならない方がはるかに多いのが人生だ。  
それならば、人生の目標を思うようにならない方に合わせるべきだ。  
思うようにならぬ、それは言葉を言い換えれば『負けること』。  
自分の思うとおりにカッコ良く勝てることなど、人生では、ごくまれだ。  
小さい時から、負ける練習を積んでおけば、成人してから、負けに強い人間になれる。  
人生における波風、どんな屈辱にも耐えて、まっすぐに自分の道を歩んでいけるような『命の根』を作っておこう。

「失敗と書いて成長と読む！」は、プロ野球の名選手であり、名監督でもあった野村克也氏の言葉です。テスト生で入団した野村選手は、何度も挫折を味わいながら、三冠王やホームラン王など、数々の賞を獲得しました。自らの数々の失敗の原因を分析し、次の成功につなげていった結果が数々の栄光をもたらしました。

人にはそれぞれ個性があり、良さがあります。自分を信じて、失敗や苦しさを恐れず、自分に与えられた課題に正面から向き合い、耐える力と強い心をもって、未来に大きく羽ばたいてほしいと願っています。

校長 藤井 朗

## 足高ほのぼの基金・記念品贈呈

今日、修了式の前に、足高ほのぼの基金・記念品贈呈式がありました。毎年、この時期に笹沖商店街振興会様のご厚意を足高ほのぼの基金を通して、子どもたちに文房具等の記念品をいただいています。本当にありがたいことです。

